

伝統の揖斐郡駅伝大会

『揖斐川の雪景色を眺め、タスキ繋ぎ、熱走！』



宇佐見晃三・大野町長



揖斐川→

寒風吹きすさぶ中、井ノ口橋を駆け抜けるランナーたち

半世紀以上の歴史ある「第57回揖斐郡駅伝大会」が12月7日（日）、揖斐川町役場から池田町総合体育館をゴールとする5区間コースで開かれた。

強い寒気が流れ込んだ影響で、前日、県内は広い範囲で雪が降り、揖斐川町でも初雪を観測。開催日当日は、辺り一面が雪景色での大会となった。

うさみ こうそう

開会式で挨拶に立った揖斐郡町村会長の宇佐美晃三・大野町長は「50年以上前から続く伝統ある駅伝大会で、私自身も、学生の頃に参加した。今でもその記憶が鮮明に残っている。日頃の練習の成果を存分に発揮し、チーム一丸となり、それぞれの目標を達成できるレースになることを期待する」と挨拶。10時の号砲とともに、一斉に駆け出した84チームのランナーたちは、厚手のコートに身を包みながら、沿道に立つ父兄や学校関係者らの声援を浴びながら冬の揖斐路を駆け抜けた。



揖斐川町役場前をスタートしたランナーたち
＝ 揖斐川町三輪

■出張所コメント

タスキ

1本の襷に思いを繋いで走る駅伝大会。繋いで走るのは、実は「襷」ではなく、「伝統」であり、「誇り」なのかも知れませんね。